子ども・子育てアンケートの速報値（単純集計）について

子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり実施した、中野区子ども・子育てアンケートの速報値（単純集計）を報告する。

1. 調査概要

- (1) 調査対象 ①乳幼児（0歳～5歳）の保護者
②就学児童（小学校1年生～3年生）の保護者
- (2) 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
- (3) 調査方法 郵送配布・回収による無記名アンケート
- (4) 調査期間 平成25年10月17日～11月7日まで

2. 回収状況

調査対象	発送件数	回収件数	回収率
乳幼児（0～5歳）	2,530	1,544	61.0%
就学児童（1～3年生）	1,570	950	60.5%
合計	4,100	2,494	60.8%

3. 速報値（単純集計）の概要

(1) 保護者（母親）の就労状況（乳幼児・就学児童調査）

- 乳幼児調査では51.7%、就学児童調査では57.8%の母親がフルタイム、パート・アルバイト等で就労しており、子どもの成長に伴い働く母親の割合が増加している。
- いずれの調査においても、1週あたりの就労日数は、5日が最も多く、1日あたりの就労時間は、7時間以上が最も多くなっている。

(2) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況（乳幼児調査）

- 幼稚園、保育園などの教育・保育事業は67.8%の保護者が利用しており、このうち88.2%の保護者が中野区内で利用している。
- 教育・保育事業を利用している保護者のうち、定期的に利用している教育・保育事業は、「認可保育所」が43.1%で最も多く、「幼稚園」が37.2%、「認証保育所」が9.3%、「幼稚園の預かり保育」が5.7%、「認定こども園（保育園枠・長時間利用）」が2.5%となっている。
- 定期的に教育・保育事業を利用している理由は、「子育てや教育をしている方が就労している」、「子どもの教育や発達のため」が多数を占めており、いずれも5割を超えている。

(3) 定期的に利用したい教育・保育事業（乳幼児調査）

- 「認可保育所」が 43.1%と最も多く、次いで「幼稚園」が 31.7%、「幼稚園の預かり保育」が 19.9%、「認定こども園（保育園枠・長時間利用）」が 11.8%、「ファミリー・サポート事業」が 11.1%、「認証保育所」が 10.2%、「ベビーシッター」が 6.0%、「認定こども園（幼稚園枠・短時間利用）」が 5.3%となっている。

(4) 不定期的な教育・保育事業、子育て支援事業の利用状況（乳幼児・就学児童調査）

- いずれの調査においても、「利用していない」が最も多くなっている。乳幼児調査において、不定期的に利用している事業としては、「幼稚園の預かり保育」が 11.3%と最も多く、次いで「保育園の一時保育・短期特例保育」が 7.9%となっており、就学児童調査では、「ファミリー・サポート事業」が 4.3%と最も多くなっている。

(5) 子育てひろばの利用状況（乳幼児調査）

- 子育てひろばの利用については、「児童館等のひろば事業」が 31.7%、「地域の団体が実施するひろば事業等」が 8.0%、「中部すこやか福祉センターのひろば事業」が 5.8%、「民間の行うひろば事業」が 5.4%となっている。

(6) 放課後の過ごし方（乳幼児・就学児童調査）※乳幼児は過ごし方の希望

- いずれの調査においても、「習い事」が最も多くなっている。
- 乳幼児調査において、「学童クラブを利用したい保護者の割合」は、低学年で 47.6%、高学年で 26.8%となっている。また、就学児童調査において、「学童クラブを現在利用している保護者の割合」は、30.9%となっている。

(7) キッズ・プラザの利用意向（就学児童調査）

- 「利用したい」が 51.7%、「利用したいと思わない」が 40.4%となっている。

4. 今後の進め方

本調査については、今後、国から示される「作業の手引き」に基づきクロス集計を行い、教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」を算出する。